



つながり

「つながり」は、医療や介護に従事する皆様が、多職種に向けて自らの情報を発信し、互いに理解を深め、顔の見える関係を築くための連携ツールとして、季節の節目ごとに発行しております。

令和4(2022)年10月20日 発行
発行元
秋田市在宅医療・介護連携センター
TEL 018-827-3636
E-mail renkei-center@acma.or.jp

職種別特集 (第7弾) 【 医療ソーシャルワーカー 】



田口 敦氏

細谷病院 事務長／秋田県医療ソーシャルワーカー協会 会長
趣味: ツーリング&中世城館めぐり
座右の銘: 人生いろいろ

「患者さんと多職種を つなぐ調整役として」

～人と人との関係を大切に～

今回のインタビューー

三浦 秀己氏

光峰苑在宅介護支援センター センター長／秋田
県中央地区介護支援専門員協会 副会長
趣味: サウナ(とどのう快感を目指しています)
座右の銘: 笑う門には福来たる



患者と家族のさまざまな問題解決の支援から多職種のつなぎ役にもなる医療ソーシャルワーカーの業務について、ケアマネジャーの三浦 秀己氏が細谷病院の田口 敦氏からお話を伺いました。

医療ソーシャルワーカーとは

三浦氏 今回職種別特集のアンカーということで、医療ソーシャルワーカーを代表してお越しいただきました。我々ケアマネとMSWのつながりはかなり濃くて深いものがあると思うので、いろいろお聞きしていきたいと思います。まず医療ソーシャルワーカー(以下、MSW)とは、というところから教えていただけますか。

田口氏 簡単に言うと医療に携わる相談員です。病院(高度急性期、急性期、回復期、慢性期)、診療所など勤務先での業務に違いはあるとは思いますが、基本的には社会福祉の立場から患者さんや家族の経済的・心理的・社会的な問題解決や入院支援、退院支援などを行っています。例えば、医療保険に加入していない、身元引受人がない、経済的に困っているなど、患者さんのさまざまな問題解決の支援、関係者やご家族との連絡調整などもMSWの仕事です。

三浦氏 患者さんのいろいろな相談に対応できる幅広い知識が必要でしょうね。

田口氏 知識はもちろん必要ですが、ありとあらゆることを知ることは絶対にできません。私個人の話をする、最初は医療事務として入職し徐々に相談業務や入退院支援を担当していくようになりま

した。今でも医療保険の請求事務は担当していますし、その知識と経験が患者さんの入退院支援などに役立つこともあります。他にも、情報として社会の動きなどいろいろな知識を持っておくことによってMSWとして何かしら活着していると思っています。そうは言ってもMSWだけでは患者さんのさまざまな問題を解決することはできないので、やはり他の専門職の力が必要です。

三浦氏 それは我々ケアマネも意識しているところですよ。

田口氏 そういった意味では、MSWは医療機関に所属しているとはいえ、他の専門職とは立ち位置が少し違うかもしれません。他の専門職は医師の指示を受けて処置やリハビリなどを行いますが、MSWは関わる専門職の見立てを集めて、問題の一つずつ解決していく調整役だと思っています。どのタイミングで誰に連絡し何をどうやって相談するかなど、MSWとしての見立てをつながりながら調整しています。

三浦氏 病院の相談窓口になったり、本人やご家族、関係者との調整役になったり、私たちケアマネからするとMSWは「病院の顔」という感覚でお付き合いさせていただいています。秋田では実際どのくらいの方がMSWとして医療機関に勤務されているのでしょうか。

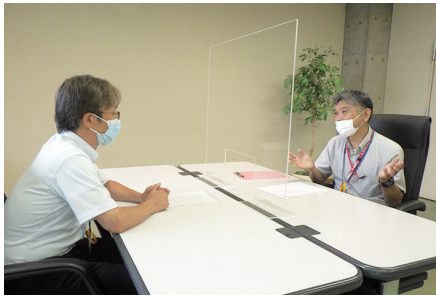
田口氏 MSWは社会福祉士や精神保健福祉士でなければならぬ仕事ではなく、秋田県では社会福祉士会、精神保健福祉士協会とは別に秋田県医療ソーシャルワーカー協会という職能団体があります。県内の医療機関に勤務する約100名のMSWが会員になっています。実際に勤務している人数はもっと多く、今では市内のほとんどの病院にMSWが配置されています。

一人の患者さんをチームで支える

三浦氏 ほとんどの病院にMSWが配置されたり、介護保険制度も整えられたりと、この20年で大きく環境が変わりましたよね。

田口氏 介護保険制度ができた平成12年以前は、市内の病院にMSWはほとんどいませんでした。当時は限られた選択肢のなかで退院先を探していましたが、今では患者さんの状態に合わせてサービスを組み合わせられるようになりましたし、退院後の生活の選択肢はかなり広がりましたよね。何より一人の患者さんに対してたくさんの職種が関わるようになったので、MSWはチームをつなぐ役割として頑張っていかなければいけないと感じます。

三浦氏 患者さんやご家族はもちろん、



感染症対策を講じた上でインタビューを実施しました

連携は人と人との関係から

三浦氏 田口さんが多職種との連携で気をつけていることを教えてください。

田口氏 「ここは願ひする」というポイントをしっかり伝えることですね。言わなくても分かる部分もあえて口に出して説明するようにしています。うまくいかないところは案外コミュニケーションで解決することもあります。例えば介護保険の区分変更をかける時は患者さんの状態から必要な支援や退院後の生活などを検討しますよね。意見書を書く医師にはできるだけ具体的に伝えるようにしていますし、その他の関係者に対してもその流れや意図を言葉にして共有するようにしています。

三浦氏 難しいことありますが、チームで進むためには大切なところですね。

田口氏 チームで情報を共有することで、それぞれの専門性の視点の違いが連携に活かせることもあります。職種によって役割や視点は全く違いますし、多職種の意見を聞くことでMSWとしての自分とはまた違う見方ができます。それぞれの職種の見立てを集めて繋げていくというのはMSWの強みのひとつだと思います。

私たちも安心して相談させていただいています。MSWとして大変なこともあると思いますがいかがですか。

田口氏 患者さんの希望と支援する側の思いに違いがあって葛藤することはあります。以前ホスピスへの転院が望ましいと思う方が施設への退院を希望されたときには、本人、家族、関係者で話し合いを重ねました。カンファレンスではたたくさんの関係者が集まって課題を検討し、患者さんの希望を実現しました。

三浦氏 我々は患者さんの選択を支援する役目ですからね。

田口氏 患者さんが100人いれば100の人生があって、その方が考える「正解」を支援者側の思いで壊すわけにはいかないですね。私だったらこうするか、本来ならこうしたいという思いはありますが、果たしてそれはその人の希望通りなのかと、日々葛藤しています。患者さんの思い全てに共感や理解をすることは難しいですが、それぞれの生活や環境を紐解きながら公平で、広く偏らない視野を持っていたいと思っています。

三浦氏 ケアマネを含め、他の職種にお願いしたいことやメッセージはありますか。

田口氏 MSWもですが、勤務年数や経験など人によって対応に差を感じることはあります。どの職種でも人によってそれぞれ個性ができるのは当然かもしれないですね。経験が全てではありませんが、やはり場数や経験を重ねることは必要だと思います。ただ、全員が同じ経験を重ねることはできないので、研修会や事例検討を通してその経験を共有したり、餅は餅屋というように、他の専門職の意見を聞いて情報交換できるといいと思っています。

三浦氏 関係性を築くうえで大事な機会だと思います。研修会に参加すると相手の人柄が見えることもありますし、相手を知ると何かあってもフォローし合えたり小さな情報交換ができたりしますね。

田口氏 連携は人と人との関係を築くことから始まるような気がします。関わる機会が多い職種の方には些細なことでも連絡しやすいですが、少ない方と繋がるためにはそういった場を活用できるといいですね。

三浦氏 その時期が来たらまたよろしく願ひします。今日はありがとうございました。

インタビューの感想

多職種間の連携が一人ひとりを支える一つであることを強く感じました。今後も、より多くの職種と連携していきたいです。



自分の発言が活字になると気恥ずかしいですね(笑) 院内外の多職種との架け橋役として皆さんと協力できればと改めて思いました。

お知らせ

資源調査へのご協力ありがとうございました
いただいた情報はホームページに掲載しています

施設区分	回答数(カ所)	総数(カ所)	回答率(%)
病院 診療所	241	254	94.9%
歯科	142	160	88.8%
薬局	176	183	96.2%
訪問看護ステーション	31	32	96.9%
介護(施設系)	181	214	84.6%
介護(居宅系)	296	356	83.1%
福祉用具 貸与 販売	21	25	84.0%
計	1088	1224	88.9%

情報はホームページの「施設検索」からご覧いただけます。今後も地域の医療・介護資源の実態を適切に反映させるため、情報提供のご協力をお願いいたします。



令和4年度 多職種連携研修会
「医療・介護関係者のためのACP(人生会議)研修」を開催します



日時：11月26日(土) 13:00~【zoom開催】
内容：ACP(人生会議)に関する基礎的な知識や「その人らしさ」を大切にしたい支援について学び、講義のあとはACPポートフォリオ作成の体験をします。
申込：11月10日(木)まで連携センターへ

ACPポートフォリオとは、その方が生きてきた奇跡や大切にしている価値観をダイジェストにしてA4サイズ1枚にまとめたものです。



秋田市在宅医療・介護連携センター

〈受付時間〉月~金(祝日を除く)午前9時~午後5時
〒010-0976 秋田市八橋南一丁目8番5号(秋田市医師会館内)
TEL:018-827-3636 FAX:018-827-3614
E-mail renkei-center@acma.or.jp



編集後記

MSWの大先輩である田口さんのお話、私も初心を思い返しながら伺いました。田口さんが好きだという島倉千代子さんの名曲「人生いろいろ」。あらゆることを受け止めているような歌詞に考えさせられました。 渡邊

